

# としょかんだより

(中央館) TEL 22-3225 FAX 22-7118  
(夜久野分館) TEL・FAX 37-1066

(三和分館) TEL 58-4715 FAX 58-4716  
(大江分館) TEL・FAX 56-1017



## 紙じゃない本

竹や木の板、植物の茎、動物の皮など、昔から本は色々な材料で作られてきました。今残っている世界でいちばん古い本は、5～6千年前に古代メソポタミアで作られた粘土板の本です。重くて、形も四角ではありませんでした。やがて紙が発明されてからは、軽くて保存しやすい紙の本に変わっていききました。

最近では、パソコンやスマートフォンで読める電子書籍(デジタルブック)の出版が増えてきました。「昔、本は紙で作られていた」という日が、くるのかもしれないね。



### ◆参考にした本◆

『本のことがわかる本 1』

稲葉 茂勝/文、能勢 仁/監修、ミネルヴァ書房

『本について授業をはじめます』

永江 朗/著、少年写真新聞社

『ブックデザイナー』

スタジオ248/編著、六耀社



## あなたの知らないセカイかも!?

本を読んでいろんなセカイを知ると、今よりもちょっとこのセカイがすてきに思えるかも…。



### 『妖怪の子預かります』

(廣嶋 玲子/作、東京創元社)

長屋で平和に暮らす千弥と弥助。弥助は、あることがきっかけで、妖怪のお奉行様から「つぐないとして、子妖怪らを預かり、守ることを命ずる」と裁きを受けます。その日から、妖怪たちが毎夜やって来て大さわぎ。心あたたまる、お江戸妖怪ファンタジー。シリーズ続刊中。

### 『歌がにがてな人魚』

(ルイス・スロポドキン/作、瑞雲舎)

金色の長い髪をして甘くすんだ声で歌をうたう人魚たち。その中に一人だけ髪が赤くて、歌の苦手な人魚がいました。その人魚は、いつも皆と一緒に歌わせてもらえません。ところが、ある日大事件がおこりそうになり…苦手なことも素敵なお話。

### 『じりじりの移動図書館』

(まはら 三桃 ほか/著、講談社)

移動図書館車ミネルヴァ号の中には本がいっぱい!本に夢中になっているうちに車が出発してしまったら…気がついた時にあなたがいるのは、過去?未来?そこはあなたの知らない世界かも…移動図書館車をモチーフにした5人の人気作家によるリレー小説、第3弾。

どくしょ しゅうかん  
読書週間  
2020

## ラストページまで 駆け抜けて



読書週間が近づいてきました。静かな秋の夜に、じっくりと本を読んでみませんか。夢中になって読める一冊に出会えますように!

### ▼図書館まめちしき

図書館は協力している

さがしている本が図書館にないときは、福知山市内の他の図書館があれば、取り寄せることができます。また、京都府にあるたくさんの図書館と協力をしているので、他の図書館から借りることができるかもしれません。お近くの図書館でおたずねください。

# 児童おすすめ本

## 『子うしのきんじろう』

(今西 乃子 / 作, 岩崎書店)

お肉となる黒毛和牛を育てる牧場で、金色の毛の子牛が生まれた。きんじろうと名付け、かあちゃんはかわいがるが、島の人々は「気持ち悪い」「肉としては売れない、殺せ」という。「ゴミではなくお肉として、きんじろうの命を終わらせてあげたい」とかあちゃんは…。

## 『ぼくと母さんのキャラバン』

(柏葉 幸子 / 著, 講談社)

ある夜、巨大なネズミに会ったぼく。ネズミは、今夜母さんにキャラバンを引いてもらう約束をしていたというが、母さんがどこにもいない。代わりにぼくがキャラバンを引くことに…。異世界と交わった街。母さんを探しながら、ぼくは荷物を届ける旅に出た。

## 『オオカミの旅』

(ロザンヌ・パリー / 作, あかね書房)

自然豊かな山で暮らしていたオオカミのスイフト。ある日、よその群れに襲われ親もきょうだいも失った。かろうじて生き延びたが、敵との戦いは終わりではない。仲間を求めて、草原や山を駆けるスイフト。若いオオカミの成長と冒険の物語。

## 『NHK子ども科学電話相談恐竜スペシャル!』

(NHK「子ども科学電話相談」制作班 / 編, NHK出版)

「恐竜本の表紙はどうしてティラノサウルスばかりなの?」「恐竜はどこのお肉がおいしいの?」など、NHKラジオ「子ども科学電話相談」に寄せられた恐竜に関する相談に、恐竜の第一人者たちがわかりやすく回答。恐竜の基礎知識も覚えられます。

# ティーンズおすすめ本

## 『アポリア』

(いとう みく / 作, 童心社)

東日本大震災から約20年後、日本の首都を襲う大地震が発生。思春期真ただ中の一弥の日常は一変し…。避難所で何人かの人々と過ごしていく中で、生きるために奮闘し、いろいろなことを少しずつ乗り越え前に進んでいく一弥。命とは、生きるとはについて考える1冊。

## 『天邪鬼な皇子と唐の黒猫』

(渡辺 仙州 / 作, ポプラ社)

「おれさま」は唐の蘇州からやってきた黒猫。倭国の天皇へと献上され、皇子の定省に飼われることになった。定省は「猫なんて好きじゃない」としぶしぶ飼うのだというが…。実在した宇多天皇の日記『寛平御記』をもとに、猫の視点で描く、痛快平安ストーリー。

## 『旅が好きだ!』

(河出書房新社 / 編, 角田 光代 / ほか 著, 河出書房新社)

一人旅、どん底での出会い、パン食べ比べ、飛行機トラブル…。旅好きの21人が全力で旅の魅力を伝えています。自由に安全に平和に旅に行ける日が早く訪れることを願いながら、今は本で旅をしませんか。新たな世界を広げるきっかけになるかもしれません。旅のブックガイド付きです。

## 『友だちってなんだろう?』

(齋藤 孝 / 著, 誠文堂新光社)

古今東西、歴史の偉人からシンガーソングライターなど、様々な人たちの名言やエピソードを交え、いつになっても考えてしまう永遠の疑問について考えます。「友だちに対する意識改革のすすめ」の本。